

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005～2009

課題番号：18330128

研究課題名（和文） 援助機器導入による重度知的障害者の生活ニーズの視覚化と自立支援技法に関する研究

研究課題名（英文） Support for Independency using intellectual support devices for people with severe intellectual disability

研究代表者

吉川 かおり（YOSHIKAWA KAORI）

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：90309013

研究分野：障害学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：知的障害 知的援助機器 生活の質 自立支援 自尊感情

1. 研究計画の概要

生活ニーズを言語化することが困難な重度知的障害者に焦点をあて、生活ニーズを視覚化する方法および援助機器の開発・導入を行い、「選べる・自分のしたいことを決められる、決めたことを実行に移せる」という視点での関わりに基づく支援を通して、自立度の向上を図り、職員との相互作用の変化を実証し、社会との相互作用を変化させる糸口を見つけることが目的である。そのために、（1）生活ニーズを視覚化して支援する方法を確立する。（2）既存の援助機器を改良または開発、海外での援助機器を試験的に導入し、自立度の向上に関して効果測定をする。（3）自立度の向上が職員の負担減にどのように寄与したか、援助機器導入による費用対効果を明らかにする。（4）自己の要求を視覚化するツールを用いてのエンパワメントにより、重度の人々の社会参加の促進を図るための政策立案を行う。

2. 研究の進捗状況

（1）生活ニーズの視覚化して支援する方法の確立について、重度知的障害者5名への2年間の取り組みからポイントを抽出できる見通しがついた。具体的には、知的能力の程度を属性・数量・時間・因果関係・コミュニケーションの5側面からアセスメントする方法と社会生活能力の面からアセスメントする方法を組み合わせ、適切な援助機器選定に結び付けるための方法論、実施評価の継続的实施により変化を把握する方法、を確立しつつある。

（2）既存の援助機器を改良または開発、海

外での援助機器を試験的に導入し、自立度の向上に関して効果測定をするという点について、新規の援助機器およびプログラム開発について15点以上の実績を上げた。また、既存の機器を重度知的障害者向けに改良し、因果関係や属性の理解促進に役立てるようにした。自立度の向上について、援助機器導入以前にはなかった自発的行動や情緒の安定が見られるようになった。最終的には、2009年8月末まで効果検証をし、それからまとめに入る予定である。

（3）自立度の向上が職員の負担減にどのように寄与したか、援助機器導入による費用対効果を明らかにするという点については、援助機器活動の導入により重度知的障害者の情緒が安定した結果、問題行動が減ったことが報告されている。費用対効果については、効果検証終了後に検討を始める。

（4）自己の要求を視覚化するツールを用いてのエンパワメントにより、重度の人々の社会参加の促進を図るための政策立案については、上記すべての成果を統合したのちに実施する。

3. 現在までの達成度

評価：②おおむね順調に進展している。

重度知的障害者の変化を引き出すために、準備期間を含めて4年間という年月を用意した。知的援助機器の導入は実質2年間であるが、その間に（1）利用者の状態を把握するためのアセスメントスケールの開発とそれに基づく定期的評価の実施、（2）自立度の向上および情緒の安定が見られた参加者が複数名いる、（3）職員への評価表の開発および定期的振り返りの実施、を行い、予定

していた研究活動は8割程度終了しつつある。

4. 今後の研究の推進方策

4年目にあたる2009年度は、8月まで予定通りに効果検証活動を行い、それ以降は研究のまとめおよび政策立案の段階に入る。研究発表及び啓発活動のための海外招聘を実施する予定である。また、研究で用いたアセスメント表や知見を盛り込んだ知的援助機器活動に関する図書を、2009年10月に刊行する予定である。

5. 代表的な研究成果

〔学会発表〕(計 1件)

吉川かおり

「知的援助機器による障害者の自立支援」

日本福祉工学会

2008年11月29日 山梨大学